

山岳トイレし尿処理技術実証試験要領（案）

旧	新（案）
<p>・ 緒言</p> <p>1．目的</p> <p>本実証試験は、山岳トイレし尿処理技術のうち、既に実用化段階にある先進的な技術について、その環境保全効果を第三者が客観的に実証し、情報公開する事業である。ここでは、山岳トイレし尿処理技術の実証手法・体制の確立を図るとともに、山岳地などの自然地域の環境に資する適正なトイレし尿処理技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促すことを目的とする。</p> <p>2．対象技術</p> <p>本実証試験の対象となる山岳トイレし尿処理技術とは、山岳部などの自然地域で上下水道、電気（商用電源）、道路等のインフラの整備が不十分な地域等において、し尿を適切に処理するための技術を指す。</p> <p>具体的には、し尿を生物学的処理、化学的処理、物理学的処理、もしくはそれらの組み合わせにより処理するもので、洗浄水やし尿処理水を原則として公共用水域等に放流・排水しない「非放流式」を対象とする。</p>	<p>・ 緒言</p> <p>1．目的</p> <p>本実証試験は、山岳トイレし尿処理技術のうち、既に実用化段階にある先進的な技術について、その環境保全効果を第三者が客観的に実証し、情報公開する事業である。ここでは、山岳トイレし尿処理技術の実証手法・体制の確立を図るとともに、山岳地などの自然地域の環境に資する適正なトイレし尿処理技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促すことを目的とする。</p> <p>2．対象技術</p> <p>本実証試験の対象となる山岳トイレし尿処理技術とは、山岳地などの自然地域で上下水道、電気（商用電源）、道路等のインフラの整備が不十分な地域、または自然環境の保全に配慮しなければならない地域において、し尿を適切に処理するための技術を指す。</p> <p>具体的には、し尿を生物学的処理、化学的処理、物理学的処理、もしくはそれらの組み合わせにより処理するもので、洗浄水やし尿処理水を原則として公共用水域等に放流・排水しない「非放流式」を対象とする。</p>

旧	新（案）																																										
<p>・実証試験の準備</p> <p>1．対象技術の分類</p> <p>山岳トイレし尿処理技術には、生物学的処理、化学的処理、物理学的処理、およびそれらの併用処理タイプがある。実証項目の観点から処理方式を分類したものを表1に示す。その他の項は、これらに該当しない処理方式で、1頁に示した対象技術に該当するものを指している。なお、併用処理の場合は、併用する処理の中で、もっとも中心的な処理方法をもとに分類する。</p>	<p>・実証試験の準備</p> <p>1．対象技術の分類</p> <p>山岳トイレし尿処理技術には、生物学的処理、化学的処理、物理学的処理、およびそれらの併用処理タイプがある。実証項目の観点から処理方式を分類したものを表1に示す。その他の項は、これらに該当しない処理方式で、1頁に示した対象技術に該当するものを指している。なお、併用処理の場合は、併用する処理の中で、もっとも中心的な処理方法をもとに分類する。</p>																																										
<p>表1：し尿処理方式の分類</p>	<p>表1：山岳トイレに用いられるし尿処理技術の分類</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>し尿処理方式</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生物処理</td> <td>し尿を微生物を用いて生物的に処理する方法</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>化学処理</td> <td>し尿を薬剤等を用いて化学的に処理する方法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌処理</td> <td>し尿を好気・嫌気処理した後、土壌に埋設した散水管を通して土壌中に浸透させて処理する方法</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乾燥・焼却処理</td> <td>乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する処理方法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>コンポスト処理</td> <td>し尿を多孔質で空隙率が高い杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、その空隙に蓄積したり、微生物で分解する方法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>その他</td> <td>No1～5に該当しない処理方式</td> </tr> </tbody> </table>	No	し尿 処理方式	処理方法	1	生物処理	し尿を 微生物を用いて生物的に処理する方法	2	化学処理	し尿を 薬剤等を用いて化学的に処理する方法	3	土壌処理	し尿を好気・嫌気処理した後、 土壌に埋設した散水管を通して土壌中に浸透させて処理する方法	4	乾燥・焼却処理	乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する処理方法	5	コンポスト処理	し尿を多孔質で空隙率が高い杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、その空隙に蓄積したり、 微生物で分解する方法	6	その他	No1～5に該当しない処理方式	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>処理方式</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生物処理</td> <td>微生物を用いて生物学的に処理する方法</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>物理化学処理</td> <td>物理化学的に処理する方法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌処理</td> <td>前処理した後、土壌に埋設した散水管を通して土壌で処理する方法</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乾燥・焼却処理</td> <td>乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する方法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>コンポスト処理</td> <td>杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、微生物で分解する方法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>その他</td> <td>No1～5に該当しない処理方式</td> </tr> </tbody> </table>	No	処理方式	処理方法	1	生物処理	微生物を用いて生物学的に処理する方法	2	物理化学処理	物理化学的に処理する方法	3	土壌処理	前処理した後、土壌に埋設した散水管を通して土壌で処理する方法	4	乾燥・焼却処理	乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する方法	5	コンポスト処理	杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、微生物で分解する方法	6	その他	No1～5に該当しない処理方式
No	し尿 処理方式	処理方法																																									
1	生物処理	し尿を 微生物を用いて生物的に処理する方法																																									
2	化学処理	し尿を 薬剤等を用いて化学的に処理する方法																																									
3	土壌処理	し尿を好気・嫌気処理した後、 土壌に埋設した散水管を通して土壌中に浸透させて処理する方法																																									
4	乾燥・焼却処理	乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する処理方法																																									
5	コンポスト処理	し尿を多孔質で空隙率が高い杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、その空隙に蓄積したり、 微生物で分解する方法																																									
6	その他	No1～5に該当しない処理方式																																									
No	処理方式	処理方法																																									
1	生物処理	微生物を用いて生物学的に処理する方法																																									
2	物理化学処理	物理化学的に処理する方法																																									
3	土壌処理	前処理した後、土壌に埋設した散水管を通して土壌で処理する方法																																									
4	乾燥・焼却処理	乾燥・焼却により、し尿の水分を除去し、粉末化する方法																																									
5	コンポスト処理	杉チップやオガクズ等と混合・攪拌し、微生物で分解する方法																																									
6	その他	No1～5に該当しない処理方式																																									

旧	新（案）
<p>・実証試験結果報告書の作成</p> <p>実証試験の結果は、実証試験結果報告書としてとりまとめる。</p> <p>実証試験結果報告書のドラフトは、実証機関、実証試験機関、実証申請者等によってレビューする。最終の実証試験結果報告書は、技術実証委員会での検討後、実証機関に提出する。</p> <p>実証試験結果報告書には以下の内容を含むこととする。また、実証試験結果報告書の要約版も作成する。</p>	<p>・実証試験結果報告書の作成</p> <p><u>実証機関は、技術実証委員会での検討を経た上で、実証試験結果報告書を取りまとめ、環境省の承認を得ることとする。また、実証機関は報告書の概要も作成する。なお、報告書および概要の作成の際には、原則として以下に示す項目・様式に従うこととする。</u></p>